

東通原子力発電所1・2号機新設に係る 環境監視調査結果（平成27年度）について

当社では、平成19年度より建設工事中の環境監視の調査を行っています。なお、福島第一原子力発電所で発生した原子力災害の収束に向けた取り組みを最優先する観点から、東通原子力発電所の本格工事を当面見合わせることであり、資材の搬出入、建設機器の稼働が著しく少ないことから、平成23年度以降「大気質」「騒音」「振動」の環境監視の頻度を見直しております。

平成27年度の調査の結果として「大気質」「振動」「水質」につきましては、環境基準値・環境目標値を下回っていました。

「騒音」につきましては、横浜町家ノ前川目において環境基準値と比較すると基準をわずかに超えていましたが、この値は建設工事開始前の平成13年度の調査結果と同等な値でした。

また、発電所建設地境界において、夜間の環境騒音が環境基準値と比較すると基準をわずかに超えていましたが、平成27年度は夜間の作業は実施しておらず、夜間を通して連続的に聞こえていた虫の鳴き声、波の音が影響したものと思われます。

なお、これらの地域は「環境基本法」に基づく騒音に係る環境基準の類型に指定されていない地域です。

「地形及び地質」「陸域に生育する植物」「海域に生育、生息する動植物」につきましては平成19年度～平成26年度と比較した結果、大きな変化はありませんでした。

以上の結果より、発電所建設工事が周辺環境に与える影響は現時点では小さいものと評価いたしました。

調査結果の詳細につきましては、「東通原子力発電所1・2号機新設に係る環境監視調査結果報告書（平成27年度）」として、トントウビレッジ内の原子力情報コーナーにて閲覧が可能です。

以上